【7月17日(月)】

朝風呂に入って朝食を済ませ爽快な気分でホテルを出る、今日もいい天気のようだ。

列車は予定時間より 10 分ばかり遅れ 8 時 47 分アンデルマットを発車、ロイス川に沿って荒々しいホスペンタールの風景の中を走り、フルカベーストンネル(新フルカトンネル)の起点、レアルプ Realp 1,538m へ向かう。

標高 2,431m のフルカ峠を越える鉄道は、かつては 2,160m の高所を 1.874km のフルカトンネルで抜けていたが、冬季の雪害や国防上の要請もあって 1982 年レアルプ、オーバーヴァルト間に 15.442km のフルカベーストンネルを完成した。

此のトンネルはフルカの名を冠しているが、勾配緩和のために峠の南側に大きく迂回している。 此の為距離の短縮は殆どなかったが、最急勾配は 118 パーミル(千分率)から 17.5 パーミルと 大幅に緩和している。

ベーストンネルの開通により大幅な時間短縮と通年運行が確保されたが、ローヌ氷河の末端を眺める車窓景観が失われることになり、これを惜しむ声が多かったことから 1992 年以降夏季に限りフルカ山岳蒸気鉄道 DFB として復活運転が行われるようになった。

レアルプからトンネルに入ってオーバーヴァルト Oberwald 1,368m へ抜けるのに 17 分、ラックピニヨン区間、単線なのでトンネル内に離合のため 2 か所の信号所があるという。

トンネルを抜けて車窓に映る川はローヌ川、此のあたりはまだロッテン Rotten と呼ばれている。 進行方向遥かにヴァリス州の名峰ヴァイスホルン Weisshorn 4,505m が見えた、白銀の雄姿は アローザには悪いがやはり格が違う。



名峰ヴァイスホルン



ブリーク駅前



世話になるポストバス

列車はやがてラックピニョン区間を脱して粘着レール区間になる、久方振りの滑るような走りにことさら快感を覚えた。

右側の山手は昨年アレッチ氷河ウオークで歩いたベットマーホルン、此処から 30 分でブリーク に到着、別送のスーツケースを受け取り昼食用にサンドイッチなどを買い込んでから 11 時 15 分 発のポストバスで通いなれた道をサースフェーに向かった。

黄色い車体にホルンのマークがついたポストバスは懐かしい、今回は鉄道の利用が多かったのでスイスの高い鉄道密度について述べたが、それでも全ての地域をカバー出来るわけではなく、そのカバー出来ていない地域の貴重な足がこのポストバスだといえる。

1900 年代初頭、郵便配達の馬車に客を乗せたのがルーツだが、今では 798 路線、10,363km を約 2,000 台で年間約 1 億人の乗客を運んでいて我等旅行者にとって無くてはならない交通機関だ。

6. 再びサースフェー

12 時 30 分、サースフェー郵便局ガレージのターミナルに到着、10 分で馴染みの Hotel Alpin に入り身支度を整えて13 時 10 分出発、ロープウェイステーションに向かう。

今回はサースフェー最高所展望台ミッテルアラリン Mittelallalin 3,500m へ行きたいので皆とは途中から別行動になる、同じ要望のあった栗原夫妻と4人がビイフィク Bifig からフェルスキン行き Felskin 3,000m に乗り継ぐ、右手にフェー氷河の落行くさまを見ながら14分、此処からミッテルアラリン行き地下ケーブル乗り場までは可なりトンネルの中を歩かねばならなかった。

このメトロアルピンはリージョナルパスの適用外で45CHFという高額を別途支払わねばならなかったが、これはフェー氷河 Feegletscher 上部のスキー場を何度も利用できるからだったらしい。 闇を行くケーブルカーの乗車時間は僅か4分だからやはり高いと思ったが、場所も高い所なのだから仕様がないか。







迫るアラリンホルン



フェー氷河の大斜面

展望台の外は一面の雪、夏でも滑れる広大な雪原が展開し、目の前に梯形の大雪塊アラリンホルン Allalinhorn 4,027m が覆いかぶさるように迫ってくる。

円筒形の展望台の外をぐるりと回り、中へは入らずベンチに座って壮大なミシャベル山群を眺めながらサンドイッチをほほばった。

我々は一行が目指したレングフルーLängfluh 2,870m へも行ってみたかったので、一渡り高所の景色を楽しんだ後、ビイフィクまで戻り、ロープウェイを乗り換えてレングフルーへ向かう。

途中駅シュピールボーデン Spielboden 2,448mの手前で下の山道を行く我等一行の姿が見えた、密閉のゴンドラからでは声をかけても届かないし気付いて貰えないのは残念だ。

ここからの傾斜は一段と急になり下に山道は見えるが幅の狭い傾斜路で歩行者の姿は全くない、 その為、我等の一行もシュピールボーデンからトレッキングを始めたはずだ。



押し寄せるフェー氷河



ミミナグサの一種

15時20分レングフルー到着、フェルスキンではフェー氷河を横から眺めたが、此処では正面から氷河が向かってくる、しかも此処はフェー氷河の真ん中に突き出した山稜であるため、急傾斜を落ち込む氷河が圧縮されながら両側に分かれるのでクレバスありセラックの林立あり、荒々しく身震いするような光景が目の前に押し寄せていた。

それにしてもフェー氷河は大きい、左から右へ先程のアラリンホルン、正面のアルプフーベル Alphubel 4,206m、隣のテッシュホルン Täschhorn 4,491m とほぼ 180 度の雪を纏めて凍らせサース谷へ下り落ちる。

目を足元に転じたら岩陰に白い可憐な花が一塊、ナデシコ科ミミナグサ属ケラスティウム・ラティフォリウムで 1,800~3,000m の岩場に咲く花だった。

ロープウェイの稼働時間が 16 時までなのでぐずぐずしておられず、トイレに寄って降りることにしたが、この便器の高さには困惑、これがスイス人の平均かと首をかしげる。

おそらく最後のロープウェイで下山、16 時 30 分ホテルアルピン着、一同揃って夕食をとる、当ホテルのサラダビュッフェは野菜好きの桑原さんにはたまらないようだ。



ホテルアルピン



ミシャベル山群夕景



揃って夕食

7. アルプスの花の散歩道

【7月18日(火)】

今日は今回の旅一番のロングトレイル、天気は良くスイス国内最高峰ドム Dom 4,545m の双耳峰もよく見えた。

8時50分のポストバスで200m下のサースグルンドへ下りる、Coopでチーズを買い、近くのパン屋サーサーベッカライSaaserBäckereiでサンドイッチを買ってロープウェイステーションへ。



サースグルンドのパン屋さん



花の散歩道道標



トリフトホルンの山腹



マットマルクダム・スタウゼー

昨年は終点のホーサース展望台 3,200m からトリフト氷河沿いに雪の中をトレッキングしたが、今回は途中駅のクロイツボーデン Kreuzboden 2,397m からアルペンブルーメンプロムナード AlpenblumenPromenade のトレッキングだ。

9 時 50 分出発、黒々とした岩肌を目指して暫くの登りは結構きつい、サースアルマゲル Saas Almagell 1,673m \sim 3 時間 45 分の標識があったが、我等はこの倍近く掛かるかもしれない。

歩く右手には長々と連なるミシャベル山群の姿があるが、残念ながら山頂付近には雲がたなびき 続けていた。

トリフトホルン Trifthorn 3,395m の山腹を巻きながらトラバース、岩くずの道を注意しながら歩くと岩陰にキク科ドロニクム・グランディイフロルム (黄色)、アルペン・アスター (紫色) などを見かけた。



雪崩防止柵



エーデルワイス

大きな雪崩防止柵が上下にある Trifutogrätji を過ぎた所でエーデルワイスを発見、このルートでもこの辺りにだけあるようだったが、野生のエーデルワイスを見るのは久し振りだった。

進行方向(南方)の奥にヨーロッパ最高所(2,200m)マットマルクダムとそのダム湖スタウゼーMattmark Stausee が見えた、昨年金色のマリア像が立つイタリア国境モンテモロ峠からこの湖畔へ下りる予定を凍雪に阻まれた所だ。



モンテモロ峠遥か



アルマゲラーアルプ小屋



山腹をトラバース

モンテモロ峠は雲に隠れて見られなかったがマットマルクダムの遠望は感慨一入だった。 白大輪のオキナグサ属アルペン・クーシェレや黄色5弁のベルク・ハーネンフス等、花の散歩道 の名に恥じない花々が目を楽しませてくれる。

サースアルマゲルのトップ 2,500m 付近を過ぎ、木陰を求めて 13 時 30 分遅い昼食をとる。

左へ方向を転じアルマゲラーホルン Almagellerhorn 3,327m の山裾、アルマゲラー谷へ入るとアルマゲラーアルプの小屋 2,194m が見えてきた。

此処は山小屋料理のレストランでホテルにもなっているが、我等はトイレ休憩のみ、15分後14時30分に出発、U字型にターンして川沿いを30分、橋を渡って川原へ下り顔を洗う、生き返る

ような気持ち良さに暫し疲れを忘れる。

唐松林に入り、吊り橋の道もあるが少し遠回りと聞いて敬遠、ジグザグの急坂を下り始める、左 手上にその吊り橋が見えたが、細くて狭そう、高所に強くない者には不向きな感じだった。









心地よい川の水

遥か上に吊り橋

樹間の道を行く

サースアルマゲル近し

樹間からサースアルマゲルの集落が見えているのに中々近づいてくれない、気のゆるみからか、 もう少しで山道が終わるという時になって転倒、大して怪我はしなかったがこれは反省だった。

16 時 15 分サースアルマゲル到着、17km 6 時間半のロングトレイルは終了、マットマルクダムからのバスまで少し間がある筈と思いソフトクリームを舐め始めたらなんと直ぐにバスが来て其の儘慌てて乗車、17 時過ぎにホテルアルピンに入れたのはラッキー。

夕方瞬時だったが大雨と雹、やはり山の天気は判らないし油断できない、夕食ではご当地サースタールのワイン Heida で完歩を祝い合った。

(Part 4 へ続く)